



平成28年度 被爆体験継承事業 企画展

原爆を伝える

— 次世代につなぐヒロシマ・ナガサキの本 —



広島県商工経済会(現在の広島商工会議所)屋上から(撮影/林重男 制作/Ari Beser 提供/広島平和記念資料館)

期間 | 平成28年 **7月9日(土)~8月31日(水)**
※期間中の休館日/月曜日(7月18日を除く)、7月19日(火)、29日(金)、8月12日(金)
※期間中の開館時間/火~金 — 9:00~19:00
土・日、7月18日(月)、8月6日(土)、11日(木) — 9:00~18:00

会場 | 広島市立中央図書館 2階 展示ホール 入場無料

講演会 原爆文学はどう生まれたか — その表現と検閲 —

日時 | 7月30日(土) 14時~16時

本を紹介しあう会 平和の大切さを伝える本

日時 | 8月20日(土) 14時~16時

※ 申込方法など、詳細は裏面をご覧ください。

広島市立中央図書館 協力 | 広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、双葉社、山端祥吾氏

企画展／2階 展示ホール

近年、被爆体験をどのようにして次世代へ継承していくかが大きな課題となっています。被爆体験のない世代がより深く原爆のことを知るために、本はこれから、より重要な役割を担います。特に昨年は被爆70周年を機に、改めて被爆の惨状を伝えようと、多くの本が出版・復刊されました。

本展では、昨年発行された本をはじめ、これまでに図書館が収集してきた本を、手記、文学、絵、写真など様々な表現方法ごとに展示し、紹介します。



『小説母と暮せば』
山田洋次/著、井上麻矢/著
集英社 2015年



『原爆供養塔』
堀川恵子/著
文藝春秋 2015年



『いしづみ』
広島テレビ放送/編
ポプラ社 2015年



『夕凧の街桜の国』
こうの史代/著
双葉社 2004年



『夏の花』
原民喜/著
能楽書林 1949年



『紫雲』第2号
広島国泰寺高等学校
校友会文芸部/(編) 1949年



『稚子艶れず』
石田雅子/著
表現社 1949年

関連行事／3階 セミナー室

要申込・先着順 7月1日(金)9:00から受付開始

講演会 原爆文学はどう生まれたか —その表現と検閲—

文学作品で原爆を伝えることはどのような背景があり意味を持つのか、原爆をテーマとする文学作品が持つ「伝える力」についてお話いただきます。

講師 | 堀場 清子氏(詩人)

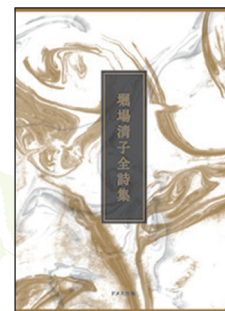
昭和5年(1930年)広島市出身。14歳のときに爆心地から9キロ離れた疎開先で原爆の被害を目の当たりにする。早稲田大学文学部卒業。詩作のほか、検閲や原爆文学についての論文を精力的に発表し続けている。詩とエッセイの個人誌「いしづたる」を創刊する。

日時 | 7月30日(土)14時~16時

定員 | 60名

申込 | 来館、電話、FAX、ホームページの専用フォームから

※手話通訳・要約筆記が必要な方は7月8日(金)までにお申込みください。



『堀場清子全詩集』
堀場清子/著
ドメス出版 2013年

本を紹介しあう会 平和の大切さを伝える本

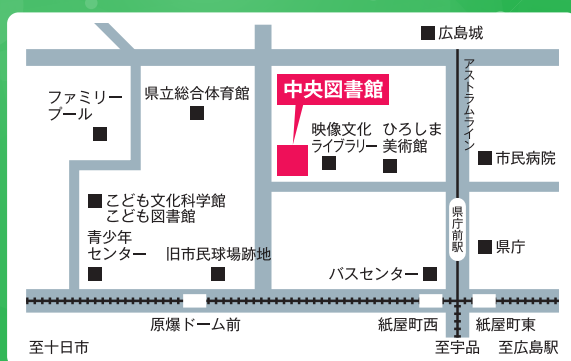
原爆に関する本や、平和について考えることができる本を1人1冊、5分程度で紹介しあい、「平和への思いを広げていくために私たちができること」について話し合う会です。

日時 | 8月20日(土)14時~16時

定員 | 25名

申込 | 来館、電話、郵送、FAXで専用申込用紙により申込み。またはホームページの専用フォームから。締切は8月16日(火)

※手話通訳・要約筆記が必要な方は7月28日(木)までにお申込みください。



お問い合わせ・関連行事の申込み

広島市立中央図書館

広島市中区基町3番1号

TEL 082-222-5542

FAX 082-222-5545

<http://www.library.city.hiroshima.jp/>